

ばんけい

教育ほつとにゅーす
かわら版こみち
教育の小径No.74
12月号
2014 December

今月のことば

先手を打つ

相手より先に手を打つことによって、より有利な位置や地位を保つことをいい、囲碁や将棋などゲームの勝負で使われます。先手必勝ともいいます。類似の表現に「機先(きせん)を制する」があります。



国士舘大学教授
北 俊夫先生

学習の見通しと振り返り

- 学習の見通しをもつとは、学習計画を立てることです。このことによって、子どもたちに学習へのやる気をもたせることができます。
- 学習を振り返ることによって、学習の成果を確認することができます。その結果、学習に対して自信をもたせることができます。

今月の記念日

映画の日(12月1日)

日本で映画が最初に公開されたのは、1896年(明治29年)11月のことです。場所は神戸市でした。このことを記念して、1956年に日本映画の団体がキリのよいこの日に制定しました。

先が見えると、やる気が出る

私たちは、これから先に何をどのように行うのか。スケジュールが明確になると、早く取り組みたいという意欲が高まってきます。逆に、先が見えないと不安になります。取り組みに対しても躊躇しがちです。

「段取りを立てる」という言葉があります。「段取り」とは、国語辞典によると、「事の順序や方法を定めること」「心がまえをすること」とあります。私たちがさまざまな物事に取り組むときには、思いつきや場当たりにならないよう、またできるだけよい結果を生み出せるように、工程表を作成するなど、段取りを立てて取り組みたいものです。

子どもたちが授業のなかで問題解決に取り組むとき、いきなり挑戦させるのではなく、その前に学習計画をしっかり立てさせます。学習計画とは問題解決の方法のことです。例えば、理科では実験・観察の仕方を考えさせることであり、社会科では調べ方やまとめ方を明確にすることです。国語科ではこれから学習していく内容や方法を計画することを言います。

これからどのようなことを、どのように学習していくのか。学習の内容と方法の観点から、これからの方向性を明確にすることにより、学習の筋道が見えるようになります。子どもたちは先を見据え

ながら、今やるべきことを考え取り組むようになります。先が見えると、学習への意欲も高まってきます。これが学習計画を立てることによって、子どもに見通しをもたせることの意義です。

一旦作成された学習計画が、その後の学習の状況によって一部修正されることはもちろんあります。

成果に気づくと、自信がつく

私たちはある事に取り組んだあと、必ず「よくできたか」とか「不十分なことはなかったか」と、その成果を確認します。自らの成果を確認するという行為が、それまでの営みを「振り返る」という活動です。

授業においても、教えっぱなしで終わらせず、また子どもたちの活動をやりっぱなしで終わらせないよう、子どもの活動の成果を見きわめる必要があります。これは子どもの学習状況を評価することです。このことは教師の指導を評価することでもあります。

そのためには、1単位時間や単元・題材の終末の場面で、それまでの学習を振り返らせることがポイントになります。振り返ることによって、できるようになったことやわかるようになったことなど学習の成果に気づかせ、確認させることができます。このことは子どもに自信をもたせることにつながります。また、新たな課題に気づかせることによって、

これからの学習に対してやる気をもたせることにもつながります。

子どもたちに学習を振り返らせることによって、学習への成就感や達成感を味わわせ、次への挑戦意欲を育てます。これは、当事者にとって、自己評価している姿だといえます。

授業の終末をどう展開するか。このことは授業づくりの新しい課題です。

授業の入口と出口の問題

学習計画を立て、子どもたちに学習の見通しをもたせることは授業の入口の問題です。授業の導入時において、学習のめあてを具体的にとらえさせることとも言えます。学習を振り返り、成就感を味わわせることは授業の出口の問題です。今、授業の入口と出口の問題が「見通しと振り返り」という言い方で新しい課題として提起されています。

授業においては授業の入口と出口をつなげることが大切です。具体的には、終末において、学習のめあてに立ち返ってまとめさせることです。

学習指導要領の総則には、「児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること」とあります。これは各教科等の指導に当たっての配慮事項です。総則の趣旨を実現させるためにも、学習計画の作成と自己評価の実施を重視した授業づくりが求められます。

新聞を読む習慣

子どもに新聞を読む習慣を身につけていますか。「小学生に新聞を！」と言われると、抵抗を感じるかもしれませんが、小さいときから文字や活字に触れ、新聞に慣れ親しむことはとても大切なことです。

今、NIEという取り組みが行われています。これは「Newspaper In Education」の略で、「教育に新聞を！」という主張です。社会科や国語科などの授業のなかで複数の新聞を読み比べたり、記事を教材として活用したりしている学校もあります。

新聞はおとなを対象に編集されていますから、小学生にとって難解な用語や文章が見られます。そのため、まずは子どもが興味や関心をもったところに目を向けさせます。テレビの番組欄でもスポーツ欄でもいいでしょう。まずは手に取って試してみることが大切です。新聞には、小学生の投書が掲載されていたり、小学生にも読めるように活字を大きくしたり、振りがなを付けたりしているページもあります。小学生新聞を講読している家庭もあります。社会や世の中の様子は、テレビでも知ることができます。しかし、テレビは速報性が高い反面、新聞のようにいつでも、何度でも読み直すことができません。文字や活字を通して情報を得ることは、より深い理解につながります。

各家庭でも、新聞記事を話題にするなどして、新聞を身近に感じる子どもを育てたいものです。小学生の頃から新聞を読む習慣を養うことは、保護者や教師の大切な役割だといえます。



がん教育の検討会

「がん」は、生涯のうち国民の2人に1人がかかる可能性があると言われていて、胃がん、食道がん、大腸がん、舌がん、皮膚がん、子宮がんなどあらゆる臓器や器官に発症する可能性をもった疾患です。

「がん」については、学校教育を通じて子どもたちにも、正しい理解を促すことが新しい課題になっています。文部科学省は、がんに関する学校教育の取り組みを推進するため、医師や教育関係者などから構成される「がん教育の在り方に関する検討会」を立ち上げ、現在検討を重ねています。検討の

結果は来年の3月末までにとりまとめられる予定です。

検討会は、平成18年に施行された「がん対策基本法」及び平成24年度に閣議決定された「がん対策推進基本計画」にもとづいたものです。「基本計画」では、「子どもに対しては、健康と命の大切について学び、自らの健康を適切に管理し、がんに対する正しい知識とがん患者に対する正しい認識を持つようにすること」を目指して、学校での健康教育全体の中で「がん」教育をどのようにするかを検討し、その結果にもとづいて教育活動を実施することを示しています。

現在、全国18の道府県と3つの指定都市で「がん教育」の取り組みをモデル事業として実施しています。

コラム

ものの見方・考え方は何か(2)

不易と流行

各学校での教育活動は、社会のさまざまな影響を受けながら実施されています。社会の変化に伴って、学校に要請される課題も変わってきます。「学校は時代に乗り遅れている」と指摘されることもあり、社会の変化への対応力が問われます。

例えば、環境や多文化に配慮した生き方を教えることや、ICTを効果的に活用できるようにすることなどは新しい教育課題だと言えます。

私たちはものを見たり、ものに関心を寄せたりするとき、どうしても変化のあるもの、目新しいもの、社会の注目を浴びているものに目が向きがちです。これらはいずれも「流行」です。従来と変わらないもの、伝統的なものの、目立たない地味なものなどには関

心をもつことが少ないようです。

学習指導要領はほぼ10年ごとに改訂されてきました。社会が変化し、新しい課題が顕在化したためです。ところが、学習指導要領が繰り返し改訂されてきたにもかかわらず、各教科等には変わらない部分があります。この「不易」の部分にこそ、教育の本質があると言えるのかもしれませんが。

「流行」のみに目が奪われ、時計の振り子のように右へ左へと振り回されることがないようにしたいものです。

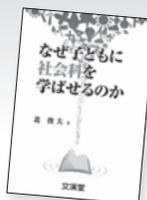
「不易にこそ事の本質がある」という見方・考え方をもちことによって、本質とらええられない価値観に立ち、腰を据えた取り組みを維持することができます。変えなければならないことは何か。変えてはならないことは何か。常に二つの視点から事に当たることが求められます。

INFORMATION

こんなときどうする!
**学級担任の
危機対応
マニュアル**

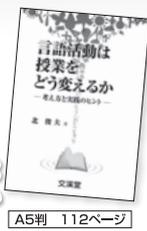
◎著者 北 俊夫
◎定価 950円+税
◎発行 株式会社文溪堂

A5判 96ページ



A5判 104ページ

なぜ子どもに
社会科を
学ばせるのか



言語活動は
授業をどう変えるか

—考え方と実践のヒント—

A5判 112ページ

編集後記

年の瀬です。毎年のごとくですが、この時期は新学期に向けてやるべきことが山積します。日々段取りを立て、一つ一つのことに取り組みながら、行き詰まりながら、7年目を迎えたばかりの本誌もお届けすることができました。まさに今が一年でもっとも「見通しの大切さ」を実感するときです。(T記)



企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2014年12月1日